提出締め切り: 帰国後１ヶ月以内　　提出先: shien@asafas.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院　アジア・アフリカ地域研究研究科
2012 年度　JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名　　楠　和樹　　2009　年度（入学・編入）

1.研究課題：

東アフリカにおける畜産資源の市場化―ケニアのラクダ商品化を事例として

2. 渡航先：

現地滞在期間：平成　24　年 10　月　3　日　　～　25 年　　1 月　　1 日　（　　91　日間）

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回の派遣では、牧畜を主要な生業とする人々の多く暮らしている東アフリカ諸国のなかでもケニア共和国を対象として、同国で近年急速に進行しているとされるラクダの商品化という動向に着目しながら、この地域における畜産資源の市場ネットワークの様態をあきらかにすることを目的としていた。この際、とくに、この市場ネットワークを媒介する役割を果たしている諸アクターの意義に着目する、というアプローチをとった。派遣時には、比較的規模の大きい家畜市場が定期的に開催されているイシオロ、ワンバ、ドンドルの三ヶ所で、市場の様子を観察するとともに聞きとり調査をおこなった。家畜の流通ネットワーク内に占める地理的な位置や集まってくる人々のエスニック的な属性（ソマリ、ボラナ、サンブル、マサイなど）が異なるそれらの市場では、売り手と買い手の関係をとりもつ媒介的なアクターがそれぞれ固有の役割をになっていることが分かった。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

現在報告者が関心を持っているのは、「今回の派遣でその一端が明らかにされたような東アフリカにおける畜産資源の市場ネットワークの様態が、植民統治期以降どのように構成されてきたのか」という問いである。地域開発のために利用可能な資源の比較的稀少なケニア北部のような乾燥地にあっては、畜産資源を地域コミュニティ内／間に閉ざされた流通から開放し、市場ネットワークに安定的に供給されるようにすることが、植民統治の初期にあって重要な政策課題であったことが知られている。上述のような歴史的プロセスを詳細に記述するために、ケニアの National Archives やイギリス連邦の Public Record Office で資料を収集することを今後の課題としたい。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

項目 3 で述べた目的に沿うかたちで知見を得ることができたことで、本プログラムへの参加には非常に満足している。支援室の方からのサポートも、細やかなものだった。

＊1 ページを超えないようにしてください。

＊プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。

署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿